

学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校

令和 6 年度 自己評価結果報告書

令和 7 年 7 月 7 日(月)

令和 7 年度 第 5 回 運営会議

目 次

はじめに P2

I. 学校の概要 P3-5

II. 評価項目の達成及び取組状況(令和6年度 自己評価結果) P6-37

1. 教育理念・目標 (P6)
2. 学校運営 (P9)
3. 教育活動 (P13)
4. 学習成果 (P18)
5. 学生支援 (P21)
6. 教育環境 (P26)
7. 学生の受け入れ募集 (P28)
8. 財務 (P31)
9. 法令等の遵守 (P33)
10. 社会貢献・地域貢献 (P35)
11. 国際交流 (P37)

はじめに

本校では、学校教育法第42条及び学校教育法施行規則 第66条に従い、学校運営及び教育活動の活性化と質の向上に向けて自己評価を行っております。

令和6年度自己評価については、「専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月文部科学省)」に示されている以下の11項目について、令和7年度 事業計画に基づき、令和7年4月～5月にかけて関係する委員会(内部組織)が評価を行い、6月に本校にて学校評価を運営する評価委員会にてまとめ、令和7年7月7日に本校の意思決定機関である運営会議に提案・承認されました。なお、この自己評価結果報告書を本校ホームページに掲載することで、広く社会に公開しているところです。

また、関係業界、大学、高等学校、地域住民、卒業生、保護者などの学校関係者により構成された学校関係者評価委員会に提案し、適切に説明責任を果たすとともに、この学校関係者評価に基づき、特色ある学校づくりを進めて参ります。

【評価項目と担当委員会等】

項目番号	評価項目名	担当委員会等(内部組織)					
項目1	教育理念・目標	校長運営室	教育委員会	広報委員会			
項目2	学校運営	校長運営室	財務委員会	情報システム委員会	広報委員会		
項目3	教育活動	教育委員会	校長運営室	評価委員会			
項目4	学習成果	教育委員会	校長運営室	学生委員会	就職委員会		
項目5	学生支援	学生委員会	校長運営室	教育委員会	就職委員会	広報委員会	Info Clipper 委員
項目6	教育環境	教育委員会	財務委員会	衛生委員会			
項目7	学生の受け入れ募集	入試委員会	校長運営室	財務委員会	広報委員会		
項目8	財 務	財務委員会	校長運営室	情報システム委員会			
項目9	法令等の遵守	評価委員会	校長運営室	情報システム委員会			
項目10	社会貢献・地域貢献	広報委員会	学生委員会				
項目11	国際交流	校長運営室					

近年では、令和2年4月施行の高等教育の修学支援新制度(大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号))や専修学校の専門課程における職業実践専門課程(平成25年8月文科省告示第133号)において、専修学校における質保証・向上に資する取り組みが求められている状況です。

そのような中、エビデンス(根拠)に基づき、教職員全体で取り組むことで学校運営及び教育活動の活性化と質の向上に今後も繋げていく所存です。

鹿児島医療技術専門学校
評 価 委 員 会

I. 学校概要

【学校名】

学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校

【所在地】

・平川キャンパス(診療放射線技術学科, 作業療法学科, 理学療法学科, 言語聴覚療法学科)

鹿児島市平川町字宇都口5417-1

・谷山キャンパス(看護学科, 介護福祉学科)

鹿児島市東谷山3丁目31番27号

【設置する課程, 学科, 定員, 修業年限】

課 程	学 科	区 分	入学定員	収容定員	修業年限
医療専門課程	看護学科	昼間部	80 名	320 名	4 年
	診療放射線技術学科	昼間部	80 名	320 名	4 年
	作業療法学科	昼間部	40 名	160 名	4 年
	理学療法学科	昼間部	80 名	320 名	4 年
	言語聴覚療法学科	昼間部	40 名	160 名	4 年
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	昼間部	40 名	80 名	2 年

教 育 理 念

深い人間愛の精神を基本として，人間尊重の理念に基づいて人格の形成を目指し，豊かな人間性と教養を備え，進展する医療・保健・福祉に対応できる知識と技術をもって，実践できる有能な人材を育成する。

校 是

若人達よ 心と智慧を磨け
郷里を愛し 弱きを温かく見つめ
果敢に行動せよ
そして地球規模の医療人であれ

校 訓

- 一， 自律・仁愛
- 二， 礼節・信義
- 三， 忍耐・挑戦
- 四， 感謝・共働

アドミッションポリシー(入学者受入方針)

本校では、以下のような入学者を求めます。

- 1 主体的に医療・福祉の専門的知識を学ぶ意欲をもつ人
- 2 目標達成のために努力できる人
- 3 誠実で他者を思いやる人
- 4 人間関係を築くためのコミュニケーションが図れる人
- 5 保健・医療・福祉に興味をもつ人
- 6 地域社会に貢献する意思をもつ人

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本校では、ディプロマポリシーを達成するために、教育課程の編成・実施の方針を以下の通り定めます。

- 1 各学科の専門分野の体系や人材育成の目的に基づいて、科目を設置します。
- 2 豊かな人間性と倫理観の育成、社会的責任を養うための科目を設置します。
- 3 医療・福祉の専門職として必要な知識・技術・態度を修得する科目を設置します。
- 4 コミュニケーション能力・問題解決能力・論理的思考・知識を活用する能力が修得できるために多様な教育方法で教授します。
- 5 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携・協働する力を修得する科目を設置します。
- 6 学生の主体的な学びのために、探求型学習やプロジェクトベースの視点を取り入れた授業を積極的に実施します。
- 7 専門的知識の基礎を確立し、生涯にわたって学び続けることができるようにするために、必要な技能・態度を育むことができるカリキュラムとします。
- 8 各学科が求める資質や能力における到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて評価を行います。

ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本校では、各学科で定めた所定の単位を全て修得するとともに、以下の能力を身につけた者に卒業を認定し、高度専門士(看護学科・診療放射線技術学科・作業療法学科・理学療法学科・言語聴覚療法学科)及び専門士(介護福祉学科)の称号を与えます。

- 1 社会人や医療・福祉の専門職としての責任と自覚をもち、倫理観に基づいた行動をとれる能力
- 2 医療・福祉の専門職として、実践に必要な専門的知識・技術・態度を修得し、向上し続ける能力
- 3 他者を尊重しながら自分の考えや気持ちを表現し、対人関係を築く能力
- 4 多職種連携の必要性を考え、異なる専門分野の専門家と協働し、主体的に役割を発揮できる能力
- 5 医療・福祉の専門職として、探究心と向上心を持ち、創造性を発揮し、問題解決に向けて行動することができる能力

Ⅱ. 評価項目の達成及び取組状況

令和 6 年度 自己評価結果（評価項目の達成及び課題・今後の改善方策等）

1. 教育理念・目標

評点:適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和 5 年度 学校関係者
			校長運営室	教育委員会	広報委員会	
1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4	昨年度の全体研修において、教育理念をもとに教育目的、目標、3 ポリシーを全職員の意見を集約し、再作成し、本校の育成する人材等がより明確化できた。 【データ】 ・教育理念(HP 掲載) ・3 つのポリシー(HP 掲載) ・校長メッセージ(HP 掲載) ・期待する卒業生像	教育理念から目標、3 ポリシーについては、明確に定められており、教育目標・3 ポリシーについては、全体職員研修で検討を行い新たに設定できた。また、各学科でも教育目標を定めて、専門性を活かした特性を明確にしている。 【データ】 ・鹿児島医療技術専門学校 教育理念 ・鹿児島医療技術専門学校 3 つのポリシー ・パンフレットの MESSAGE ・学科の教育目標(期待する卒業生像) ・全体職員研修会の記録		3.4
2	学校における職業教育の特色は何か	4	医療福祉施設と密接に連携した体制の下、より高度で専門的な知識・技術・態度を修得するために積極的に最先端の技術にも挑戦するとともに、豊かな人間力を備えた人材育成に努めている。 ・職業実践専門課程認定校(※県内医療系専門学校認定 2 校 10 学科) ・4年課程カリキュラムによる高度専門士取得 ・質の高い教育環境(最新設備、県内外約 401 箇所の臨床実習施設、実習実施:1 日以上 281 人、2 日～7 日 436 人、8 日以上 996 人、多職種連携教育等) ・産学連携による多職種連携教育への VR 教育システム導入	各職種において、学内での知識・技術・態度の獲得を行い、臨床(臨地)実習において、実践的な思考力・判断力・学んだ技術の応用など、実践に即した職業教育が行われている。また、教育理念に基づき、人間性および人間力を有する豊かなプロフェッショナルを目指す人材育成に努めている。そして、学科を超えた多職種連携教育や地域貢献活動、ICT 教育なども行っている。 【データ】 ・4 年課程カリキュラムによる高度専門士(※県内唯一)および専門士の称号付与 ・職業実践専門課程認定校(※県内医療系専門学校認定 2 校) ・質の高い教育環境(最新設備、県内外約 400 ヶ所の優れた臨床実習施設、チーム医療学習等) ・先端技術利活用研究		

3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	地域の住民や高校、関連医療福祉施設関係者が参画した学校関係者評価委員会を年1回開催し、貴重な意見を拝聴した上で、これらのニーズを踏まえた事業計画を策定している。 ・令和7年度事業計画 ・学校長メッセージ(HP掲載)	社会のニーズを踏まえるため、関係する職能団体や臨床における実践者の方々を委員として、学校関係者評価委員会(年1回)や教育課程編成委員会(年2回)を開催して意見を頂いている。また、育成したい人材として、「時代の要請に応える保健医療福祉のプロフェッショナル」とメッセージを掲げている。 【データ】 ・令和6年度事業計画 ・パンフレットのMESSAGE		
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	学校の理念、目的、育成人材像、特色等について、学生便覧、学校パンフレット、ホームページに掲載し、学生や保護者に周知している。また、オープンキャンパスや進学相談会等で入学検討者にも説明している。 ・2025年度入学者募集パンフレット ・情報公開(HP掲載) ・学生便覧		理念、育成人材像(3つのポリシー)や特色について、学生便覧、学校パンフレットやホームページにて学生・保護者等に周知している。また、入学希望者にはオープンキャンパスや進学相談会等で説明を行っている。 【データ】 ・令和7(2025)年度入学者募集 学校パンフレット ・学生便覧 ・本校ホームページの学校紹介ページ(情報公開) ・新入生・卒業生アンケート	3.4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	各学科の教育目標、育成人材像は、本校教育理念及び3つのポリシーを基に、教育課程編成委員会や臨床実習指導者会議等の実施により関連業界のニーズを十分把握考慮した上でカリキュラムに反映させ、教育内容へと繋げている。 【データ】 ・学科教育目標(HP掲載) ・リハビリテーション教育評価機構による教育評価認定(PT・OT・ST)	年2回の教育課程編成委員会や臨床実習指導者会議、講師会議(看護学科)などの実施により関連業界のニーズを把握し、各学科教育目標及び期待する卒業生などを定めている。また、頂いた意見をカリキュラム改正や教育内容へとつなげている。 【データ】 ・学科教育目標 ・各学科期待する卒業生像		

① 課題(校長運営室)

項目 4: 保護者への通知手段として Web ポータルを使用しているが、保護者全員の登録がなされていない。

項目 4: 保護者への発信が充分でない。

項目 4: 保護者の理念の浸透度の確認が必要である。

① 課題(教育委員会)

項目 3: 社会のニーズを踏まえた今後の学校づくりの検討。

① 課題(広報委員会)

項目 4: 周知の程度については、新入生・卒業生アンケートでは確認済みであるが、保護者へのアンケートでは確認ができていない..

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 4: 学生を通じて、保護者に Web ポータルへの登録を促す。

項目 4: 教職員の Web ポータル活用を促進し、保護者に向けての校内行事等を積極的に案内する。

項目 4: ネット環境等を利用したアンケート調査を実施する。

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 3: 将来を見据えた組織編制(学校運営)を検討する。

③ 今後の改善方策(広報委員会)

項目 4: 保護者へのアンケートに周知の程度の確認を行う。

2. 学校運営

評点:適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			校長運営室			
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	本校の目的に沿った運営方針を事業計画書に示し、直面する課題を明確にして目標を定め、これに対応する運営方針を策定している。 【データ】 ・令和7年度事業計画書「三、年度事業計画について」			3.6
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画書に示された運営方針に沿って、令和5年度の事業計画を具体的に策定している。 【データ】 ・令和6年度事業計画書「Ⅱ. 令和6年度事業計画」			
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4	学則第6章「教職員組織及び運営」において、教職員組織(運営組織)や運営に関する意思決定機能等を明確にしている(運営会議、各委員会の設置含む)。 ①本校の決議機関である運営会議運用申し合わせの策定 ②各学科での合格選考予備会議の策定 ③委員会設置:11委員会(財務、教育、学生、入試、広報、衛生、評価、就職、情報システム、Info Clipper 専門委員会、国家試験対策委員会)、1プロジェクトチーム(先端技術推進プロジェクトチーム) 【データ】 ・学則 第6章(第32条 教職員組織、第33条 運営) ・①・②・③に関する各種規程			
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	就業規則第6条から12条(採用・異動等)、第23条から27条(労働時間・休憩及び休日)、第28条から33条(休暇)、第55条から72条(賃金)、第73条から77条(定年、退職及び解雇)について等規定し整備している。また、教職員が常に確認できるように各キャンパスに備え、かつ Teams で閲覧可能にしている。			

5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各学科等で審議された教務、財務等に関する事項は、さらに関係する 11 委員会に諮られ、そこで決議された事項は、さらに本校の最高意思決定機関である運営会議に諮られて決定する体制を整えている。 【データ】 ・会議規程、運営会議運用申し合わせ ・(財務) 財務委員会規程、(教務)教育・学生委員会規程	財務委員会		
				・教務: 学科⇒委員会⇒校長室⇒運営会議と承認プロセスが確立, 整備されている。 ・財務: 予算要望⇒学園本部との折衝⇒理事会・評議員会のプロセス. 予算要望についてもプロセスが確立, 整備されている。また, 職務権限規程を整備し承認権限についても整備されている。 【データ】会議規程, 運営会議申し合わせ, 職務権限規程		
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	地域社会に対する本校の社会的責任として、外部の方々に対して複数の場を設定し、学校運営や教育活動内容等に関する報告を行い、ご意見を頂戴している。また、学園としてコンプライアンス室を設けて法の順守体制を整えている。 ・学校関係者評価委員会(年 1 回 8 月) ・教育課程編成委員会(年 2 回 8 月・2 月) ・臨床実習指導者会議(年 1 回 3～7 月) ・広報委員会(年間通して活動)	広報委員会	学校の社会的責務として、外部に対し次の機会等で学校運営及び教育活動の報告や意見を求めている。また、学園としてコンプライアンス室やホットライン窓口を設置している。 【データ】 ・学校関係者評価委員会(年 1 回 7 月) ・教育課程編成委員会(年 2 回 7 月・2 月) ・臨床実習指導者会議(年 1 回 3～5 月) ・広報委員会(年間通して活動)	3.6
				情報システム委員会		
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	文科省「情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、①概要②目標・計画③教育④就職⑤組織⑥支援⑦財務⑧評価に関する最新情報を本校 HP にて公開している。 【データ】 ・本校ホームページ専用ページ「学校紹介: 情報公開」			

8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	・リモートアクセスシステムを利用した在宅勤務 ・「Zoom」を活用した遠隔授業 ・「Teams」を活用して教職員間で情報の共有化を図ると共に、休講等の通知を学生に一斉連絡。 ・出張・校外勤務伺、伺書、経費申請の電子申請化 ・勤怠システム導入 ・学生出席管理の電子化	・Teams 等のコミュニケーションツールの活用 ・校内サーバーや office365 を用いたファイル共有の利便化 ・備品管理システムの運用 ・info Clipper による学務管理(スマホによる出席管理, 成績管理, 証明書等の発行など) ・教職員の各種申請書類(出張校外勤務伺, 伺書, 経費申請)の電子化によるペーパーレス化 ・勤怠管理システムによる業務効率化・ペーパーレス化	
---	---------------------------	---	---	--	--

① 課題(校長運営室)

項目 8:業務の効率化について、一部の業務は依然、紙媒体での回覧となっている。(学級費・実習費の伺書)

① 課題(財務委員会)

特になし

① 課題(情報システム委員会)

項目 8:図書システムや様々なサービスが有効に活用されているのかといった検証や有効活用の知見共有の機会が少なく、これらの活用も個々人によって差異がある。

項目 8:学科や授業科目によっては、ペーパーレス化が進んでいないところもある。

項目 8:学校から保証人に様々な情報提供を行う Web ポータルにおいて、マニュアルに記載されている登録方法が分かりづらいとの指摘がある。

項目 8:学生の届出書類の電子化が進んでいない。

① 課題(広報委員会)

項目 6:特になし

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 8:学級費・実習費の伺書については、事務職員で検討しているが、教員の協力が必須である。教員と事務が協働で検討する機会を設け、実現させる。

② 今後の改善方策(財務委員会)

特になし

② 今後の改善方策(情報システム委員会)

項目 8:サービスの活用状況に関するログの解析、アンケートや有効活用を行う事例紹介、操作方法の研修を行うなどし、組織全体のリテラシーを高めていく。

項目 8:物理的にペーパーレス化ができない部分もあるが、できるところからペーパーレス化を図っていく。

項目 8:IT 機器に不慣れな方にも分かりやすいマニュアルに修正する。

項目 8:電子化に向けて実施方法を検討する。

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 6:特になし

3. 教育活動

評点:適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			教育委員会	校長運営室	評価委員会	
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	教育課程については、教育理念から各学科で教育目標・期待する卒業生像などを策定し、カリキュラムを編成している。また、教育課程編成委員会からの意見も踏まえカリキュラムが実施されている。 【データ】 ・学則(教育課程表) ・教育課程編成委員会(令和6年度:8月、3月実施) ・令和6年度全体職員研修会の記録 ・新たな教育目標、3ポリシー	教育課程については、教育理念をもとに教育課程編成委員会や実習指導者会議、講師会議等での意見も踏まえて、各学科で編成・実施している。 【データ】 ・学則 ・令和6年度教育課程編成委員会議事要旨 ・令和6年度全体職員研修会の記録		3.7
2	教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	教育理念から各学科の教育目標・期待する卒業生像(年次目標)が明確に設定されており、人材育成の目標も提示されている。高度専門士、専門士としての学習時間も十分に確保できている。 【データ】 ・教育課程編成委員会(再掲) ・教育課程表・期待する卒業生像(年次目標)	教育理念に基づく各学科の育人人材像や教育到達目標が明確に設定されており、さらに業界のニーズも踏まえた再検討も行っている。また、高度専門士・専門士としての学習時間も十分に確保している。 【データ】 ・各学科教育目標(HP掲載) ・カリキュラムマップ(HP掲載)		
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	規程規則に准じカリキュラムが体系的に編成されており、承認も得ている。また、職業実践専門課程の認定も受けている。 【データ】 ・教育課程表及びカリキュラムマップ(HP掲載)	指定規則に准じカリキュラムが体系的に編成されている。 【データ】 ・教育課程表(HP掲載) ・カリキュラムマップ(HP掲載)		

4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	看護学科・診療放射線技術学科・言語聴覚療法学科の3学科ではカリキュラムに位置づけられており、他の学科でも特別講義や講演などでのキャリア教育を実施している。また、OSCE、演習等で卒業生に直接指導を頂いたり、実践的な職業教育を意識しての講義も取り入れている。 【データ】 ・教育課程表(再掲) ・FD 研修・研究授業 ・教育課程編成委員会(再掲)			3.7
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	講師会議や実習指導者会議等での外部からの意見等から意見交換は行われており、カリキュラムへ反映されるように検討を行っている。 【データ】 ・講師会議(令和7年3月実施) ・実習指導者会議(令和7年3月)	講師会議、実習指導者会議、教育課程編成委員会等で、外部関係施設等と意見交換を行い、カリキュラムの再検討に反映させている。 ・講師会議(年1回3月実施) ・教育課程編成委員会(年2回8月・2月) ・臨床実習指導者会議(年1回3月～7月)		
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	職業教育(臨床実習等)については、カリキュラムへ体系的に位置づけられていて、各学科において十分な評価も行われている。 【データ】 ・実習計画(各学科) ・実習要綱<実習マニュアル>(各学科)			
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	講義終了後の学生からの授業評価を実施し、授業評価を外部講師も含めた全講師へフィードバックすることが行えている。 【データ】 ・授業アンケートの実施結果		授業評価を外部講師も含めた全講師へフィードバックすることが行えている。 【データ】 ・授業アンケートの実施結果	

8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会、実習指導者会議等での意見交換をもとに、実習等に対する評価を頂いている。 【データ】 ・教育課程編成委員会(再掲) ・講師会議(再掲) ・実習指導者会議(再掲)		教育課程編成委員会、実習指導者会議等での意見交換をもとに、講義内容や実習等に対する評価を頂いている。 【データ】 ・教育課程編成委員会(再掲) ・講師会議(再掲) ・実習指導者会議(再掲)	3.7
9	成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4	学習評価に対しては、学則細則の中で明確に定めている。 【データ】 ・学則(第4章)、進級規程、卒業規程	学習評価に関しては、学則細則の中で明確に定めている。また、シラバスにより各科目の認定評価も明確にしている。 【データ】 ・単位認定及び修得認定規程(HP 掲載)		
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	学内で国家試験対策委員会を中心に国家試験の成績をもとに、各学科で振返りを行い指導に活かしている。また、指導体制等も工夫している。しかし、昨年よりも合格率は下降した学科もあり、カリキュラム内容に関しても国家試験の傾向を踏まえて、講義内容の見直し等を行っている。 【データ】 ・FD/SD 研修(国家試験不合格の解消に向けた取り組み) ・教育課程表 ・国家試験対策(補講)の実績	従来の国試対策に加えて、さらに国家試験対策委員会を設置し、国家試験全員合格に向けた各学科の取り組み内容を、学科を超えて協議している。自己学習の習慣化、国家試験対策のため4月～7月、9月は平日18:30まで、10月～2月までは平日21時まで学校開放し、夜間帯にシャトルバス運行を実施。 ・FD/SD 研修(国家試験不合格の解消に向けた取り組み) ・各専門職国家試験合格実績・補習の実施等		
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	指定規則に準じて教員資格を要した教員を採用しており、人数配置も指定規則に則っている。 【データ】 ・令和6年度研修計画 ・外部講師名簿一覧	指定規則に準じて教員資格を要した教員を採用しており、人数配置も指定規則に則っている。 【データ】 ・教員名簿 ・外部講師名簿		

12	関連分野における 業界等との連携に おいて優れた教員 (本務・兼務含む) を確保しているか	4	各分野でその分野に精通した講師への依頼と臨床経験 のある講師の確保が行えている。 【データ】 ・外部講師名簿一覧	各分野でその分野に精通した講師への依頼と 臨床経験のある講師の確保が行えている。 【データ】 ・教員名簿 ・外部講師名簿		3.7
13	関連分野における 先端的な知識・技 能等を習得するた めの研修や教員の 指導力育成など資 質向上のための取 組が行われている か	4	学内におけるFD 研修の実施や、各教員年1回の外部 への研修を義務付けており、質向上に向けての取組み が行えている。 【データ】 ・FD 研修及び教育研修会	学内におけるFD 研修の実施や、年1回の外 部への研修を義務付けており、質向上に向けて の取組みが行えている。また、学内研修の他、年 3回の外部研修を義務化している。また学生、教 員問わず、学会での参加・報告を積極的に行い 知識・技能の研鑽または先端的な知識・技能を 習得するための活動を行っている。 【データ】 ・FD 研修及び教育研修会		
14	職員の能力開発の ための研修等が行 われているか	4	学内におけるFD 研修・教育研修会を実施している。 【データ】 ・FD 研修及び教育研修会	学内におけるFD 研修・教育研修会を実施して いる。 【データ】 ・FD 研修及び教育研修会実施記録		

① 課題(教育委員会)

項目 5: 関連分野や関係施設、業界団体と連携したカリキュラムの作成。

項目 10: 国家試験の合格率の向上。

① 課題(校長運営室)

項目 14: 教員の指導力育成などの資質向上について、各自専門分野の知識・技能取得は積極的に行われているが、教員としての資質向上に関する研修への取組が充分でない。

① 課題(評価委員会)

項目 7: 前期終了時、後期終了時に授業アンケートを実施できているが、集計作業においてソフト面・ハード面の影響により、講師へのフィードバックまでにタイムラグがある。

項目 7: 授業評価の結果が授業改善にどのように反映されているかが不明確であり、評価結果の活用方法と実施時期の見直しが課題である。

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 5:教育課程編成委員会や指導者会議の意見を反映させたカリキュラム改正への準備.

項目 10:国家試験の合格率を向上させるための指導体制の工夫を行う.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 14:他校の教員研修を参考にしたり、学内の授業研究を更に活発に行ったりするなど、“教員”の部分にクローズアップした研修を企画・実施する.

② 今後の改善方策(評価委員会)

項目 7:授業アンケートのフィードバックを有効に活用すべく、教育委員会とも協議・連携を行いながら、年間のスケジューリングを行い講師の振り返りに役立てる.

4. 学習成果

評点:適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			教育委員会	校長運営室	就職委員会	
1	就職率の向上が図られているか	4			令和6年度就職実績一覧(別紙添付)	3.0
2	資格取得率の向上が図られているか	3	各学科での取り組みや対策等の検討が行われたが、結果として、全国平均や昨年度の合格率を下回る学科もあった。結果の振返りを十分に行い、講義内容の工夫や指導に活かす。また、国試対策委員会を中心として、国家試験への対策を再検討して合格率の向上を目指す。 【データ】 ・シラバス、教育計画、国家試験の合格率 ・国家試験対策(補講)の実施、個別指導			
3	退学率の低減が図られているか	3	退学率の軽減に向けての取組みを各学科で検討しているが、結果として、昨年度より多くの退学者が出た。学習意欲の低い学生やメンタル的に難しい学生等のフォロー体制の検討も必要である。また、低学年での退学者が多いので成績低迷者に対しての今以上の丁寧な指導を心がける。 【データ】 ・退学率、留年率等の調査 ・学生指導報告書、欠席日数の把握	重要課題として、各学科とも退学率の低減方法を策定し実行しているが、まだまだ多いと言わざるを得ない。 (R5年度35名、R6年度41名(学業不振10名、学校生活不適應5名、進路変更19名、病気3名、経済的理由3名、その他1名)) 【データ】 ・学生数の推移(充足率) ・学科別退学者推移 ・学生指導報告書		

4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4		学生委員会 在校生：学内外における各種表彰、学会発表の把握 RT：日本放射線技術学会秋季学術大会発表（2 演題） ・日本放射線学教育学会学術集会発表（2 演題） ・九州放射線医療技術学術大会発表（1 演題） ・熊本大学大学院、群馬県立県民健康科学大学大学院、国際医療福祉大学大学院進学 ST：日本言語聴覚学会発表 2 演題、日本摂食嚥下リハビリテーション学会発表 1 演題 PT：日本運動器理学療法学術大会発表 4 演題 ・コ・メディカル形態機能学会発表 1 演題 ・認知症サポーター修了（54 名） OT・認知症サポーター修了（14 名） CW：MBC ラジオ「ふくしのラジオ！」出演（教員 1 名、学生 2 名） 卒業生： ST：日本言語聴覚学会発表 PT：鹿児島大学大学院保健学科進学（8 期生・19 期生） ・認知症サポーター養成講座講師 1 名 NS：ホームカミング実施	一部の学科では、カリキュラム評価として卒業生の研修等を実施しているが、全学科で実施できるように検討が必要である。 【データ】 在校生：学内外における各種表彰、学会発表の把握 卒業生：令和 6 年度卒業生に対するアンケート 卒業生アンケート分析結果	3.0
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善活用がされているか	3	キャリアセンターを中心に卒業生にアンケートを取り、現状の把握に努めている。しかし、アンケート結果を踏まえての教育活動への活用にはつなげられていない。		・臨床実習指導者や教育課程編成委員会での卒業生参加者の状況 ・令和 6 年度卒業生に対するアンケート 卒業生アンケート分析結果	

① 課題（教育委員会）

項目 2：国家試験合格率の向上。

項目 3：退学率の低減を図る。

項目 4：卒業生アンケートの教育活動への活動。

① 課題(校長運営室)

項目 3:退学者数が増加したため、退学率の低減を図らなければならない。

項目 3:ここ数年、退学率は上昇傾向。学科間、学校全体で取り組む必要がある。

項目 3:入学して直ぐに進路変更を希望する学生が増えてきた。

① 課題(学生委員会)

項目 4:在校生の活躍等は把握しているが、卒業生に関しては情報の把握は出来ていない。

・社会的活動を把握するには口コミでは限界がある。何かしらの情報共有の場が作れないか。

・卒業後一定の経験年数をへたのちに大学院への進学、認定看護師資格取得、特定行為研修受講などのキャリア開発に勤めている卒業生がいる。

実質どれだけの卒業生が進学やキャリアアップしているかなどの実際的な把握は十分にできていない面もある。

① 課題(就職委員会)

項目 5:卒業生アンケート分析結果を共有したが、まだ活用できていない。

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 2:国家試験対策の見直しと指導の工夫。低学年からの国家試験対策の検討を行う。

項目 3:退学者の傾向を知り、早めの対策を検討する。また、成績低迷者への個別指導を実施する。

項目 4:卒業生アンケートの内容を検討し、カリキュラムへ反映させる。

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 3:特に1年次は学業不振、2年次は進路変更が多い傾向にあるため、それぞれの学年に応じたきめ細やかな対応策を早目に講じる。また、成績低迷者への個別指導を徹底する。

項目 3:教職員間の早期連携を図り、退学理由を分析・共有し、学校全体で対策を検討する。

項目 3:キャリア教育の一環として卒業生の講話なども取り入れ、各職種の魅力を伝える講義を開催する。

② 今後の改善方策(学生委員会)

項目 4:同窓会を中心にアンケート調査などを検討する。また、学校ホームページなどに卒業生が入力できるフォーム等を検討する。

② 今後の改善方策(就職委員会)

項目 5:卒業アンケート結果と分析結果を踏まえ、各所で必要な事項の検討を行う。

5. 学生支援

評点:適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			学生委員会		就職委員会	
1	進路・就職に関する 支援体制は整備さ れているか	4			・国家試験合格者(201/230名 87%) ・就職 84%(193/230名:4名進学・33名その他) 鹿児島県内就職割合=74% ・鹿児島県外就職割合=22% ・進学割合=3% ・学科:県内・県外・進学 県内・県外・進学 理学:81%・19%・0% ・作業:100%・0%・0% 言語:80%・20%・0% ・放射:48%・38%・9% 看護:78%・19%・3% ・介護:86%・14%・0%	3.3
2	学生相談に関する 体制は整備されて いるか	4	・スクールカウンセリングを基本的に1/週計画 (令和6年度実績 72件)			
3	学生に対する経済 的な支援体制は整 備されているか	3		校長運営室 ・高等教育修学支援新制度利用者(22.0%) ・日本学生支援機構利用者(62.7%) ・病院奨学金利用者(4.8%) ・原田学園内兄弟免除制度利用者(1.9%) ・介護福祉学科 県介護福祉士修学支援利 用者(48.0%) ・留学生の学生寮費減免 ・学費分納者(5.2%) ・成績優秀者報奨制度制定		

4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	・ネットツール(Teams)で健康関連情報を定期的に提供 ・在校生健康状況把握 (既往歴、現病歴、アレルギーなど):1回/年 ・健康診断:1回/年 抗体検査:1回以上/年 ・インフルエンザ予防接種:1回/年		衛生委員会	3.3
					・健康診断:1回/年(既往歴調査を含む) ・インフルエンザ予防接種:1回/年(希望者) ・アルコール消毒液:校内各所に設置 ・サーマルカメラ:谷山キャンパス受付に設置 ・非接触体温計:各学科に配置 ・接触体温計:平川校各学科に配置 ・AED:各校・各校舎に設置	
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	サークル活動:1~3回/週 県大会・九州大会(宮崎県) 全国大会(鹿児島)が開催された。			
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	・全館、廊下教室ワックスがけ ・全館クーラーフィルター清掃 ・1号館洗面台設置の予算案承認		衛生委員会	
					・障害者専用駐車場完備(平川校)	
7	保護者と適切に連携しているか	3		教育委員会	info Clipper 委員会	
				学校生活で気になる学生については早めに保護者との連絡を取り、保護者召喚等を実施して連携は行えている。しかし、退学・休学者の低減へはつながらず、増加している。今後の更なる連携も検討が必要である。 【データ】 ・WEB ポータル利用で学生状況確認 ・試験結果等を WEB ポータルで確認できる ・無断欠席者、成績低下者等への連絡 ・看護科4年就職保護者説明会	・WEB ポータル利用で学生状況確認 ・前後期末試験結果等を WEB ポータルで確認できる:2回/年 ・無断欠席者、成績低下者等への連絡 ・看護科4年就職保護者説明会	

8	卒業生への支援体制はあるか	4	・ST 学科卒業生、在校生へ学術集会の開催。 ・キャリアセンター転職相談 令和 6 年度：人数 29 名 転職相談数 78 件 ・図書室利用・学会発表相談・研究の為に器具機材利用と貸出・勉強会、学会会場等の校舎開放		就職委員会
					・キャリアセンター転職相談 令和 6 年度：人数 29 名 転職相談数 79 件 ・図書室利用・学会発表相談・研究の為に器具・機材利用 ・勉強会、学会会場等の校舎開放 ・ST：原田カンファレンス兼同窓会(1 回/3 年) ・病院・施設訪問時の卒業生面談 ・ホームカミングディ(Ns) ・令和 6 年度卒業生に対するアンケート
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3		教育委員会	
				令和 6 年度入試から入試区分に社会人の枠を設けた。また、選考方法についても書類審査、面接、作文と現役生と差をつけることで入学しやすい環境を整備した。そして、社会人を対象とした専門実践教育訓練給付制度が RT を除く 5 学科で認定を受けた。 【データ】 ・学生募集要項 ・社会人入学生の数 ・職業訓練委託事業(CW)	
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4			広報委員会
					【データ】 ・高校生への職種紹介やガイダンス数(令和 6 年度：参加 173 回(うち職業理解・体験型・講義等 40 回)) ・原田学園学校説明会での高校の先生方への説明(2 回) ・高校からの依頼による学校見学(10 回)

3.3

① 課題(学生委員会)

項目 5: サークル活動学生の減少。

項目 6: 食堂は設置されているが、メニューに魅力がない。

項目 6:トイレの工事やワックス、洗面所の整備などは工事なども行い調整されつつある。男子学生の入学数増加に伴い、男性のトイレの数的な問題あり。

① 課題(校長運営室)

項目 3:学生への公的機関の経済的支援に関する告知を行い、各個人の申請手続きに至るまで、対応できる専任職員を配置しているが、学校独自の奨学金制度が整備されていない。

① 課題(教育委員会)

項目 7:保護者との連携の強化を図る。

項目 9:社会人入学生への教育環境の整備。

① 課題(就職委員会)

項目 1・8:特になし。

① 課題(広報委員会)

項目 10:特になし。

① 課題(info Clipper 委員会)

項目 7

・国家試験模試結果情報を伝えきれていない(学科毎の活用に温度差がある)

・ほとんどの保護者は入学式後に Web ポータルに登録し、学生の成績の確認して頂いているが、まれに登録が行えていない保護者もあり、成績の確認ができず、保護者が成績の現状を把握していないことがある。

② 今後の改善方策(学生委員会)

項目 5:各学科でサークル活動の促進を行う。部活動の経済的支援を検討する。

項目 6:学生が魅力を感じる食事メニューの開発など、食堂前のアンケートボックスを活用する。

項目 6:男性のトイレ問題に関しては、現状どれくらいの問題が生じているかの調査が必要。そのうえでの、検討事項となる。

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 3: 学園の財政状態にも関わる問題であることから、学園本部と経済的支援を一緒に検討する。

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 7: 欠席、欠課の多い学生、成績低迷者、気になる学生に対する保護者への連絡を早急に行い、情報共有を行う。

項目 9: 社会人入学者が、学校に対してどのような配慮を求めているかの調査を行う。

② 今後の改善方策(就職委員会)

項目 1・8: 特になし。

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 10: 特になし。

② 今後の改善方策(info Clipper 委員会)

項目 7

・他委員会と共同で模擬試験等の情報も閲覧可能な事を伝え保護者への活用を勧める。

・再試験不合格となった際に保護者への連絡を行っているので、その際に登録を促すことで保護者が確認できる状況であることを伝えていく。

6. 教育環境

評点:適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			教育委員会	財務委員会	衛生委員会	
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	設備や施設等に関しては、指定規則上の整備は行えている。また、教育に必要な機材や備品についても、各学科で予算申請を行い購入できている。今後の社会情勢やカリキュラム改正に向けた設備の対応が行えるように、また、老朽化の修繕も含めた更なる整備の必要がある。 【データ】 ・遠隔講義設備:モニター、ヘッドホンマイク、カメラ ・医学文献検索サービスメディカルオンライン契約 ・学生用椅子 100 脚購入 ・障害者専用駐車場完備 ・全館ワックスがけ	・施設、設備投資や更新について、各学科から予算要望書を提出してもらい、教育上必要な投資については審議の上承認されている。 【データ】予算書、執行伺書		3.7
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	臨床実習施設に関しては、カリキュラムに応じた実習施設の確保は行え、全学生が単位取得に影響のないように整備や調整を行っている。また、指導体制についても実習場との連携を図り、整備できている。今後は臨床場面に応じた指導内容の充実を図る。海外研修については、現状では実施の予定はない。 【データ】 ・令和6年度新規実習追加施設 OT5 施設(県内 5)、Ns3 施設(県内 3)、ST3 施設:(県内 3)、PT7 施設(県内 7)、CW2 施設(県内 2) 全学科で 400 施設以上			

3	防災に対する体制は整備されているか	4			・ネットツール(Teams)での JR 運休・遅延情報の提供 ・避難訓練を1回/年実施 ・平川校:災害備蓄品(救急用品セット 20 名分×4 セット、水 2L×60 本、非常食パワーバランス 2 本入 4 袋×61 個、非常用トイレ 150 回分)その他、学友会非常食「パワーバランス 2 本入 4 袋×280 個、水 500 ml×245 本」、緊急時飲料提供自販機 1 台設置(500~700 本程度) ・谷山校:災害備蓄品(水 2L×36 本、非常食スーパーバランス 2 本入り4袋×33 個、携帯用トイレ 150 回分、救急用品セット 20 人分×2セット)、各学生保管「500 ml×2 本、非常食プレーン 3 個・チョコ・3 個・抹茶味 4 個」	
---	-------------------	---	--	--	--	--

① 課題(教育委員会)

項目 1:施設の老朽化も含めた教育環境の整備.

① 課題(財務委員会)

項目 1:特になし.

② 今後の改善方策(教育委員会)

項目 1:安全面も含めた施設の整備や学生の要望を取り入れた施設の改善を行う.

② 今後の改善方策(財務委員会)

項目 1:特になし

7. 学生の受け入れ募集

評点：適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			入試委員会		広報委員会	
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	【データ】 ・学校パンフレット、学生募集要項 ・オープンキャンパス参加者数 ・進学相談会参加者数 ・受験者数、入学者数		・学校パンフレット・学生募集要項 ・オープンキャンパス ・進学相談会/オンライン進学相談会 ・LINE 相談会 ・ガイダンス	3.1
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3			・広報委員会、学科、企画広報室との連携(会議録・情報共有) ・出前授業	
3	学納金は妥当なものとなっているか	3		校長運営室 学生数の減少幅が大きくなっている。 学生数：(R3)940 → (R4) 955 → (R5) 960 → (R6) 903 → (R7) 859 【データ】 ・R6 年度財務分析(財務委員会資料) ・R6 年度事業活動収支計算書 ・R7 年度学生数の推移(充足率)	財務委員会 ・収支の側面で妥当性を判断すると、R6 年度は学生数が 900 名程度になり、それに合わせ学納金収入が減少。結果、経常収支差額はこれまでにないほど悪化している。また、学生の側面から判断すると、学生の目的である国家試験合格率も悪化傾向にあり、学納金の妥当性が薄れつつある。 【データ】 ・財務分析 ・R6 年度事業活動収支計算書 ・学科別国家試験合格率推移 ・学生数：940 → 955 → 960 → 903 → 859	

① 課題(入試委員会)

項目1:

以下の各項目の人数は、令和5年度より増加しており、今後も更に増加するよう工夫する。

- ・オープンキャンパス・進学相談会参加者数:総数 66 名増加(R5 年度 630 名 ➡ R6 年度 696 名), 高校3年生以上の参加者数は 52 名増加(R5 年度 354 名 ➡ R6 年度 406 名)
- ・受験者数:13 名増加(R5 年度 242 名 ➡ R6 年度 255 名)
- ・入学者数:27 名増加(R5 年度 202 名 ➡ R6 年度 229 名)

① 課題(校長運営室)

項目3:学納金の金額を見ると、他校との比較や公的支援を踏まえた比較となり一概に妥当であるか判断することは難しい。ただし、学校を運営するための資金である点を考慮すると、年々収支の状況は悪化している。収支が悪化すると、学習環境の整備を十分に行えなくなるため、一定の収益を確保し、学生に還元する・投資することは重要である。その観点から行くと学納金の妥当性は年々薄れている。

① 課題(広報委員会)

項目1:出前授業の一覧をホームページに掲載しているが、R5年度は申込みがなかった。

項目1:通常業務を行いながら、学生募集活動に取り組む時間を十分に確保するのが難しい。

項目1:ホームページの更新が、タイムリーに行われていない。(新年度パンフレットの内容に更新が追い付いていない)

項目1:学生募集活動が、受験や入学に繋がっていない。定員充足率が低迷している。

項目2:ホームページ、ブログ、インスタグラムにより学校生活や教育成果を発信しているが、正確に伝えられているかどうかという確認が難しい。

項目2:教育成果の一つとなる国家試験合格率の表記が過去5年間平均のみとなっている。

① 課題(財務委員会)

項目3

・在籍者数が減少し続けており、予算確保が難しくなる。

・他校の学納金との比較や、昨今の物価高騰などの外部要因と、国家試験合格率や学納金の金額が与える入学者数への影響などの内部要因を良く吟味し、学納金の金額を慎重に検討する必要がある。

② 今後の改善方策(入試委員会)

項目1:・受験者の増加に向けて、学校の魅力の発信方法、オープンキャンパスの内容の充実、新たな広報イベントの企画等に取り組む。

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目3:学生を確保することで収入の拡大、収益の確保、学生への還元が実現可能である。学生を確保するための方策を引続き全教職員で検討、実施する。

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目1:当校の特色や他校と差別化できている部分を更にアピールすると共に、効果的な広報手段を検討する。

項目2:各媒体のアクセス数を解析するなど、教育成果等が伝えられているかを判断できる方法を検討する。

③ 今後の改善方策(財務委員会)

項目3

・入学者数の確保、退学者防止など教育の質を高めるための施策を学校全体で検討、実施する。

・留学生の奨学金保証制度を見直す(学校保証の検討)

・修学支援金や給付制度などの公的支援を加味した学納金の見直しを実施する。

・学納金の見直しのため学校全体での検討会を設置する。

・学納金の裏付けとなる教育の質の確保を実施する。

8. 財務

評点：適切：4, ほぼ適切：3, やや不適切：2, 不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			財務委員会	校長運営室	情報システム委員会	
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	・大規模な土地を取得し、その取得費用を借入で調達。その影響で中長期的な財務基盤は前年と比較し悪化。また全国平均と比較しても安定している状況とは言えない。 【データ】 ・財務分析 ・R6 年度事業活動収支計算書 ・R6 年度貸借対照表	【データ】 ・R6 年度財務分析(財務委員会資料) ・R6 年度事業活動収支計算書 ・R6 年度貸借対照表		3.7
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	・例年通り、予算要望については各学科で内容を吟味し、教育環境の充実につながるよう計画されているが、収支の悪化を見込、予算の削減となった。 【データ】 ・R6 年度医技専事業活動収支計算書(対2次補正予算)	【データ】 ・R6 年度事業活動収支計算書(対2次補正予算)		
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4		・会計監査報告書(HP掲載)		
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4		・財務情報(貸借対照表・収支計算書・財産目録・事業報告書・監査報告書)(HP掲載)	・財務情報(貸借対照表・収支計算書・財産目録・事業報告書・監査報告書)(ホームページ公開)	

① 課題(財務委員会)

項目 1:大規模な投資により、借入が増加.中長期的な財務基盤に懸念が生じている.

項目 2:少子化による入学者数の減少や、多様な価値観を持った学生が増え、退学や休学となる学生が増加.その結果、在籍者数の減少に伴い収入が減少し、収支が悪化した.そのため予算の確保が難しい状況となり、有効性や妥当性が低下している.

① 課題(校長運営室)

項目 1:学生数の減少に伴い、設備投資や経費支出の抑制を図るよう努めている.

項目 1:定員未充足の拡大により、収支の悪化が顕著となる.

① 課題(情報システム委員会)

項目 4:特になし.

② 今後の改善方策(財務委員会)

項目 1:学園全体で収支のバランスを考えた投資計画を作成し、設備投資をより効率化することで、財務基盤の健全化を目指す.

項目 2:学生数の確保や退学者・休学者の減少のための教育の質向上は引続き重要な要素であり、その対策を学校全体で検討・取組を実施する.また、その検討・取組には企画広報室も参加いただき、情報共有をより進めることで新しいアイデアを生み出す.

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1:収入の基盤となる学生数の増加に向けて対応策を検討する.

項目 1:学生数を確保し、収入の増加を図るとともに、中長期の資金計画を立て、学校運営に支障をきたさないよう管理する.

② 今後の改善方策(情報システム委員会)

項目 4:特になし.

9. 法令等の遵守

評点：適切：4, ほぼ適切：3, やや不適切：2, 不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)			令和5年度 学校関係者
			評価委員会	校長運営室	情報システム委員会	
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4		法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。 【データ】 ・養成校指定規則 ・専修学校設置基準 ・職業実践専門課程認定規程		3.9
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3			・原田学園 情報セキュリティポリシー ・医技専 情報セキュリティに関するルール ・医技専 個人情報保護方針 ・医技専 プライバシーポリシー ・Sky Sea によるセキュリティーシステム	
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	・各委員会等での自己評価の実施(4-5月) ・自己評価結果報告書の作成(6月) ・学校関係者評価委員会での自己評価結果報告(7月) ・自己評価結果のHPでの公表(8月) 【データ】 ・令和5年度 学校関係者評価結果報告書 ・令和6年度自己評価結果一覧(前年度対比表)	自己評価の継続的实施と問題点の改善に努めている。 ・各委員会等での自己評価の実施(4-5月) ・自己評価結果報告書作成(6月) ・学校関係者評価委員会での自己評価結果報告(7月) ・自己評価結果をHPに公表(8月) 【データ】 ・令和5年度 学校関係者評価結果報告書 ・令和6年度 自己評価結果一覧(前年度対比表)		
4	自己評価結果を公開しているか	4	【データ】 ・自己評価結果報告書(8月HP公表) ・学校関係者評価結果報告書(8月HP公表)			

① 課題(評価委員会)

項目3:委員会活動内容と照らし合わせ主管理部門, 管理部門の見直しを行い、自己評価を行っているが、小項目の内容見直しや再検討を実施していく。

① 課題(校長運営室)

項目 1・3:特になし。

① 課題(情報システム委員会)

項目 2:セキュリティに対する意識の高さが個人によってバラツキがある。(離席時にスクリーン消去(ロック画面)しない, 重要情報のやり取り時にパスワードが未設定であるなど)

② 今後の改善方策(評価委員会)

項目3:自己評価内容について各委員会よりヒヤリングを行い、小項目の見直しの妥当性や不具合を確認し、評価内容の改善を実施していく。

② 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1・3:特になし。

② 今後の改善方策(情報システム委員会)

項目 2:教職員全体に繰り返し周知して習慣化できるようにする。また、情報システム委員は、セキュリティ規則が守られていない状況に気付いたら、その都度注意する。

10. 社会貢献・地域貢献

評点：適切：4, ほぼ適切：3, やや不適切：2, 不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)		令和5年度 学校関係者
			広報委員会	学生委員会	
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	①職能団体研修会の開催実績(6回) ②地域スポーツ団体への貢献(45回) ③地域団体等への体育館や駐車場の貸し出し(56回) ④職能団体等への施設貸し出し(1回)		3.4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3		①Teamsによる学生へのボランティア案内(11回) ・ボランティア支援:ネットツール(Teams)を利用して案内 ②ボランティア活動: ・令和6年度:8回参加総勢119名 ③ボランティア活動証明書発行 ④医技専クルー 名登録(オープンキャンパスボランティア14回/年) ⑤地域清掃活動実施(平川地区4回/谷山地区2回)	
3	地域に対する公開講座・出前講座の受託等を積極的に実施しているか	4	①本校主催の公開講座(1回) ②本校主催の出前授業(7回) ③地域団体からの依頼による講座(5回) ④職能団体からの依頼による講座(61回)		

① 課題(広報委員会)

項目 1: 特になし

① 課題(学生委員会)

項目2: ボランティア活動を行うことのメリット等を公式に学生に説明する機会を作る必要があるのではないか.

・昨今の学生の生活状況からアルバイトが中心であり、休日等のボランティア活動への参加は特定の学生が参加している現状がある.

② 今後の改善方策(広報委員会)

項目 1: 各学科で公開講座を企画していく. また、出前授業はホームページで分かりやすく表現し、中学校や高校に案内文書を送付して周知してもらう.

② 今後の改善方策(学生委員会)

項目 2:

・教職員、学生もボランティアについて(公式団体)DVD や Web を視聴しメリットについての研修を検討する.

また、Teams だけの案内だけでなく、担任からもアナウンスを行い、メリットを伝える.

・学生の中には自分がどの様なボランティアに合っているのか、また、そのボランティアの内容がどの様なものなのか情報が少ないため、実際にボランティアに参加した学生にその活動内容等について報告してもらう.

・新入生を中心に、ボランティア活動に取り組むことの社会的評価について説明を行う.

11. 国際交流

評点：適切：4, ほぼ適切：3, やや不適切：2, 不適切：1

	評価項目	評点	各項目の評価基準(資料・データ等)	令和5年度 学校関係者
			校長運営室	
1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	継続的留学生受け入れを目的に、県の介護施設等外国人留学生支援事業の継続的に利用している。 ・ホームページでの留学生募集要項を掲載 ・日本語学校への留学生募集要項の配布 ・留学生用の入学試験問題作成 ・濱州職業学院との留学生制度の提携	3.7
2	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	留学生についても学籍簿、出席簿を作成して在籍管理している。また、鹿児島県および就職施設との連携を図っている。	
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	アルバイト許可制度、日本語教育の補習、在留ビザ更新手続き、担任による生活指導等行っている。また、適宜面談を行い、カウンセリングの準備も行っている。	

① 課題(校長運営室)

項目 1～3: 特になし。

④ 今後の改善方策(校長運営室)

項目 1～3: 特になし。

以上